

平成28年度地域包括支援センター事業評価
⑤ 常盤平地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市
平成29年7月

1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	4	好事例について各事業担当、困難事例については、1人ではなく2人体制で取り組んでいる。	事業計画について ・事業には担当、副担当の2人体制で実施している。 ・地区では、困難事例には2人で対応している。
評価の根拠	ア.「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ.「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成28年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】	地域の関係づくりが課題であったため、地域ケアシステムの構築にむけて、地域住民と専門職が協力し地域の力を引出すことを念頭に置き、医療・介護・地域住民との連携をはかる。			
	オ.「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	前年度の活動実績、業務委託仕様書に添って計画書を作成し、各事業毎に主担当・副担当を配置し、企画段階から地域包括内で検討共有されている。法人内にも事業計画を提出し運営会議や理事会で承認を得ている。			
	カ. その他【任意・自由記入】	各事業については「事業をこなすだけ」でなく、その後、地域のための何かに繋がる様に企画・運営することを心掛けている。認知症予防教室参加者から認知症カフェの運営ボランティアになってもらったり、地域のマップづくりを行った。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	平成29年4月1日現在 17, 302 人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数 【時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 独居世帯数 5, 649世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数 12, 253人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	平成29年4月1日現在 8, 472人			
	エ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数 【時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 独居世帯数 3, 160世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数 6, 440人			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4	<p>好事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の声を参考にカフェを開催。地域住民主体での運営を目指しボランティアを育成。週1回開催している。 ・カフェや町会にも積極に出向き、相談やアウトリーチをすることで地域の把握を行っている。 	<p>好事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の参加者には認知症の人もいる。対応に困ることがあり、包括職員を1名配置し対応している。 ・お祭りなど外での行事でも相談を受け、アウトリーチの場としている。
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	<p>本人家族からの直接相談に加え、近隣民生委員、病院施設、介護支援専門員、サービス事業者、中核支援センター、成年後見人、市役所や警察などから、毎日電話や来所による相談がある。相談内容によって、その後訪問し状況確認を行い、ニーズの把握をし、状況によっては他機関に繋ぎ連携を取って対応している。また今年度は、地域行事に加えボランティア運営のカフェや町会の集まりにも積極的にアウトリーチを行い地域のニーズ把握に努めている。</p>			
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	<p>「地域のために何か活動がしたい。」「オレンジ協力員になっているが活動内容がわからない。」「自分の居場所がほしい。」「デイサービスに行くほどではないけれど、手芸や脳トレをしたい。」等、活躍の場や、集いの場を求めている声が多く聞かれた。</p> <p>そのため、介護予防教室の運営補助ボランティアを募ったり、オレンジ協力員や活動意欲のある方の活躍の場も兼ねて地域の方が集えるカフェの開催を行った。地域住民がボランティアで運営主体となれるようボランティア育成も行い、現在週1で開催するまでになった。</p>			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4	好事例について ・個人情報管理は、日報に記入。上司の許可を得ており、持ち出す人や時間など詳細がわかるように管理されている。	
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる			
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる			
	ウ. 個人情報の管理のために行っている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	ノートパソコン・個人情報の含まれている書類は鍵付のロッカーで管理。パソコンは全てパスワードがかかっている。 個人情報を事務所の外に持ち出す時は上長に報告し、日報にも記載している。 諸機関と個人情報をやりとりする時はパスワードを設定してメールで送ることや、個人情報が特定される部分を消してFAXで送るなどの方法を取っている。			
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	個人情報の持ち出しは資料は、極力少なくしている。持ち出し時間も限定している。 持ち出す場合は、日時・時間・対象者名などを日報に記入し上司に許可を得ている。 個人情報の利用範囲は、本人に了解を得た範囲としている。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項															
⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・転送先には待機担当者を事前に伝えている。 ・入電時、急ぎなのか転送先から発信者に聞いてもらっている。急ぎの場合には待機担当の電話に連絡が入る。 ・土日祝でも空けている日がある。電話や相談が入れば訪問に行くこともある。1日20件程度。空いてない日は待機電話に1日1件程度電話が入る。 															
ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	夜間は法人本体に電話が転送されるようになっている。転送された際、緊急の事案の場合は待機電話の当番に電話が繋がることになっており、その旨は名刺の裏に記載されているため、名刺を渡す際にお声掛けをしている。																		
イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>192 件内(135 件)</td> <td>57 件</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>96 件内(82 件)</td> <td>14 件</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>531 件内(237 件)</td> <td>294 件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>819 件内(454 件)</td> <td>365 件</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族		その他	訪問	192 件内(135 件)	57 件	面接	96 件内(82 件)	14 件	電話	531 件内(237 件)	294 件	合計	819 件内(454 件)	365 件		
	本人又は親族	その他																	
訪問	192 件内(135 件)	57 件																	
面接	96 件内(82 件)	14 件																	
電話	531 件内(237 件)	294 件																	
合計	819 件内(454 件)	365 件																	
ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	土曜・休日は法人本体に電話が転送され、緊急の場合は待機電話の当番に繋がる。その旨は名刺に記載しているため、名刺を渡す際にお声掛けをしている。																		
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>64 件内(45 件)</td> <td>19 件</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>32 件内(27 件)</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>157 件内(88 件)</td> <td>69 件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>253 件内(160 件)</td> <td>93 件</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	64 件内(45 件)	19 件	面接	32 件内(27 件)	5 件	電話	157 件内(88 件)	69 件	合計	253 件内(160 件)	93 件			
	本人又は親族	その他																	
訪問	64 件内(45 件)	19 件																	
面接	32 件内(27 件)	5 件																	
電話	157 件内(88 件)	69 件																	
合計	253 件内(160 件)	93 件																	
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>19 件内(14 件)</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>9 件内(8 件)</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>45 件内(32 件)</td> <td>13 件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>73 件内(54 件)</td> <td>19 件</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	19 件内(14 件)	5 件	面接	9 件内(8 件)	1 件	電話	45 件内(32 件)	13 件	合計	73 件内(54 件)	19 件			
	本人又は親族	その他																	
訪問	19 件内(14 件)	5 件																	
面接	9 件内(8 件)	1 件																	
電話	45 件内(32 件)	13 件																	
合計	73 件内(54 件)	19 件																	
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	いる																		
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	<p>様々な行事、各町会の集まりでPRしている。</p> <p>常盤平地域包括支援センターのチラシ作成・配布。</p>																		
キ. その他【任意・自由記入】	カフェの開催時には相談員が1名配置されているため、カフェ内でも相談を受けることが出来、アウトリーチの場となっている。																		

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		3	4	<p>好事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情に対応するファイルを作成。職員で共有し、今後につなげている。 ・苦情があった時には、他機関に報告、相談し対応している。 	
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(28年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 6 件 (内センター自体の苦情 1 件)			
	イ. 「28年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 8 日間 連携機関: 高齢者支援課・介護保険課・サービス事業所			
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している／いない	いる			
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	事業所内に掲示。重要事項説明書を用いて説明。介護保険パンフレットを用いて市役所にも相談できることを伝えている。場合によっては県の運営適正化委員会の連絡先も伝えている。			
	オ. 重大な苦情の内容及び対応内容を決定し、関係機関と共有している／いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	苦情があがった際は、地域包括内で情報共有し、法人本体や市役所や県の運営適正化委員会へ報告・相談をしている。苦情ファイルを作成し職員間で共有している。			

2. 人員体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		3	3	課題 保健師がほぼ1年不足し、欠員期間が長くなっている。対応として、ハローワーク、看護協会など複数箇所に募集を出し、積極的に職員探しに努めている。	職場内研修について個人情報や認知症カフェなど30～40分程度で開催。外部での研修についても報告し、詳細は回覧している。
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : (306)日 社会福祉士 : (0)日 主任介護支援専門員: (0)日			
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職/専門職総数)を記入】		33%		
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成29年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 21.5 月			
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	11 回			
	オ. その他【任意・自由記入】	毎日行う朝礼で、前日に受けた外部研修の内容を要約して伝えるようにしている。細かい内容については回覧し、重要なものや、希望があれば職員全体会議や包括会議内で研修報告を行っている。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②専門職間の連携を効果的に行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成29年3月末現在在籍している全ての専門職について記入	①38 ②37 ③28 ④32 ⑤32 ⑥30 ⑦28 ⑧32 ⑨23 平均 31.7 点			

3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項	
①相談内容の把握・分析を行っているか。	4	4			
評価の根拠 ア. 分類別の相談件数 (28年度1年間) a.本人又は親族への支援 【件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関に 支援 【件数を記入】	a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 3471 件 健康・医療に関する相談 2551 件 経済的相談 1437 件 介護予防相談 983 件 家族調整に関する相談 823 件 権利擁護に関する相談 356 件 諸制度に関する相談 155 件 その他 137 件 総計 9913 件	/			
	b.本人又は親族以外の機関に支援 介護に関する相談 3381 件 健康・医療に関する相談 2320 件 経済的相談 1717 件 介護予防相談 490 件 家族調整に関する相談 769 件 権利擁護に関する相談 1188 件 諸制度に関する相談 151 件 その他 138 件 総計 10154 件				
	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】 ※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討		担当エリアは、高齢者数が市内で最も多く、高齢化率は2番目に高い。また、身寄りのない低所得独居高齢者が多いため、成年後見制度の市長申し立てに繋ぐケースが多い。これは、身元引受人不要で安価な巨大団地があるためと考えられる。相談内容としては介護に関するものが多く、次いで健康不安、経済不安となっている。 近年、精神疾患が疑われる高齢者や家族が増えており介入の困難さから、警察や司法と連携を取るケースが増えている。		
	ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない		いる		
	エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない		いる		
オ. その他【任意・自由記入】	虐待・支援困難ケースは複数で担当し、毎朝ミーティングで進捗状況や支援方針を全員で共有できるようにしている。				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。	4	4		
ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている/いない	いる			
イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	病気の子が自身の病状のストレスから自立高齢者である本人を木刀で殴り流血させてしまったケース。子自身重病を抱えその精神的ストレスも暴力の要因の1つとなっていたため、子への支援としてほっとねっとなりに介入を依頼。外出等のサポートをして貰うこととなった。暴力を受けた本人は何かあれば逃げられる身体状況ではあるため、定期的に状況を把握しながら家族調整を行った。			
ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	万引き癖、パチンコ癖がある認知症の本人。万引きを繰り返し度々警察沙汰になり、子が本人の精神科への入院を検討していた。本人の配偶者は本人の病状に対する認識は薄く、自営業の手伝いをさせていたため入院を拒否。子は、入院させないことは、人権侵害だと言い、地域包括へ相談があった。保健所にも介入を依頼し話し合いを行ったが、子が感情的になってしまうことが続いた。子に対する支援が必要と考えほっとねっとなりに子への介入を依頼。役割分担をしながら家族全体として支援にあたった。			
エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	海外在住の子より、認知症利用者への服薬管理に関して伝達が関係者間で適切に出来ておらず、内服に間違いが起こってしまった事に対して苦情があったケース。服薬間違いに対して、医療機関に相談し対応したが、担当介護支援専門員への批判、松戸市全体の介護支援専門員批判にまで及んでしまった。担当介護支援専門員の変更希望があり、特定事業所加算をとっている事業所を案内し、子自身で介護支援専門員を決めもらうこととした。			
オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	本人、子、孫2人の4人世帯。本人は老健入所中であつたが、入所費用の滞納あつた。子はリストラにより現在はアルバイトで生計を立てているが生活費で消えてしまう状況。そのため本人の年金は子がいちい込んでいたことがわかつた。家はゴミ屋敷状態で孫は不登校であつた。孫に関しては、子ども家庭相談課に協力要請。フードバンクの利用や片づけの支援を世帯全体に行った。その後本人は特養に入所できた。			
カ. その他【任意・自由記入】				

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる			
	イ. 職員が依頼に基づき参加した関係機関・組織における全ての会議・行事等(※)の日程・テーマ 【日程・テーマを記入】 ※①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント(テーマ記入不要)、②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント、③地域密着型サービス事業者の運営推進会議に大別して記載(地域ケア会議や医療関係者とのカンファレンスなどを除く)	①茶話会にっこり(4月・6月・9月・1月)／常盤平4丁目あやめ会(4月・11月)／金ヶ作公園整備完成セレモニー／地域づくり懇談会／ふれあい広場／さわやか広場／ふれあい会食会／介護カフェいきいき人生／認知症サポーター養成講座(9月・10月・12月2回・2月・3月)／常盤平団地敬老会 ②介護医療連携推進会議／千葉県看護協会松戸地区部会研修会 ③そよ風(4月・6月・10月・12月・2月)／ひなたぼっこ(5月・9月・1月)／ガーデンコート常盤平(5月・7月・11月・1月)／しいえす(5月・9月・11月・1月)／さくら草(5月・9月・11月・1月)／アシストケアクラブ(9月)／あじさい(9月)／ウェルズデイリビング(9月)／ミント(2月)／明尽苑(11月・1月)／いきいき舎牧の原(2月)／ひだまりハウス(9月)／未来サポーターズ倶楽部イースト(9月)／ゲンキネクスト(2月)			
	ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している/いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】	H28年度は社会資源のマップ作成を行っていないが、認知症予防教室(カメラ教室)の参加者の事後的な自主活動として、マップ作りに繋げようと活動を開始している。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④地域の社会資源について把握を行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(○ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 15ヶ所 (サロン・認知症カフェ・地域でのクラブ活動・配食サービス・宅配サービス等) 圏域外 6ヶ所(運動施設・カラオケ事業会社・宅配サービス)			
	イ. アの地域の社会資源を開発するために行っている方策【自由記入】	認知症予防教室参加者が、自主的活動に繋がるようにボランティア育成に力を入れており、H28年度はH27年度の認知症予防教室参加者数名によりカフェの自主運営化を実施。週1回開催するまでの活動となっている。H28年度の認知症予防教室参加者では今後、学んだ写真を活かして社会資源マップを作成しようと自主グループ化を目指し活動を始めている。			
	ウ. 地域の社会資源やその情報の収集方法【自由記入】	地域の掲示板、回覧、広報、住民からの口コミで情報を収集している。			
	エ. 地域の社会資源に関するマップやリストを作成している／いない	いる			
	オ. 地域の社会資源に関するマップやリストを逐次見直している／いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	松戸広報や市からの情報、近所の体育館、ふれあい22での開催内容などインターネットなどで情報収集している。 マップや冊子は、少しずつ更新されている。			

4. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	民生委員・児童委員や町会自治会の会長からの情報提供や、介護支援専門員や家族、施設、病院、市役所、UR等からの相談により把握している。また、他の相談(支援困難事例等)により、権利を擁護する必要性が顕在化するケースも多くみられる。認知症レベルによっては、地域包括内で検討し、後見や自立支援事業につなぐケースもある。			
	イ. 成年後見制度活用につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	相談件数における成年後見制度に繋いだ件数の割合は他の地域包括と大差ないが、権利擁護の相談件数だけを比べると多くなっている。 また、市長申し立てや申し立て助成を受けて成年後見制度に繋ぐ件数は最も多い。これは、保証人不要で契約が出来る大型集合住宅が圏域内にあり、独居高齢者や経済的課題を抱えている高齢者が多いことも要因として考えられる。			
	ウ. 日常生活自立支援事業につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	日常生活自立支援事業に繋いだ件数は他の地域包括と大差ない。日常生活自立支援事業に比べ、成年後見制度に繋ぐ件数が多いのは、判断能力の低下により金銭管理が困難になっているケースが権利擁護相談の大半を占めているからであると考えられる。			
	エ. その他【任意・自由記入】	独居高齢者や認知症高齢者の金銭管理や介護サービスの契約等の身近な生活支援を必要としている人たちは今後さらに増すことが予測されている。そのような状況で、日常生活自立支援事業の果たす役割は大きい。身寄りのない高齢者も多いため、市長申し立てをせざるを得ないケースも増えるのではないかと懸念される。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	4		・待機電話には、主に関わる機関の連絡先を登録している。
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	17 件			
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる			
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	酩酊状態の子①から「出ていけ」と言われ小突かれたときに居合わせた子②が担当の介護支援専門員に相談して即日ショートステイ利用により分離したケース。以前より子①や本人が酩酊状態のときに子①からの暴言や暴力(突き飛ばす行為)があった。キーパーソンの子②が他の家族と相談。同居はできないが本人を近くに住ませようと子②から提案あり、今後近所に居住する場所を子②夫婦が探す方向で検討中。			
	エ. その他【任意・自由記入】	高齢者虐待及び虐待疑い等のケースはその都度、地域包括内でケース検討を行い、支援方針、緊急性の確認等を行っている。家族関係で問題を抱えているケースも多い為、担当を2名つけ、養護者支援を含め役割分担を持って課題解決に取り組んでいる。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		3	3	日頃の関係性もあり、介護支援専門員、民生委員から消費者被害についての情報提供がある。	
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	頻繁に消費生活センターとの連携をとっている状況ではないが、高齢者支援課も含め法律の専門家に相談することで対応している。また、対応ケースの中で、不当な新聞契約で消費生活センターを紹介し、契約解除までに至った例があり、今後も連携は不可欠である。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	介護支援専門員、民生委員から主に情報提供がある。消費生活センターや警察からの振り込め詐欺防止等の啓発チラシを持って、特に独居高齢者宅に介護支援専門員と同行訪問することもあり、注意喚起を行っている。			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の日程・内容・主な参加者層・参加者数【日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	11月10日虐待防止市民向け講演会(五香松飛台地域包括主催、常盤平管内合同開催) 「がんばらない介護」～孤立しない、させないためのヒント～ 一般市民 77名			
	エ. その他【任意・自由記入】	消費者被害は、認知症や判断能力の低下した高齢者が狙われるケースが多い。そのため、地域の民生委員・児童委員や町会自治会、介護支援専門員など様々な職種から常に情報収集するよう心掛けている。なお、再三被害にあうことが消費者被害の特徴でもあるので、その点にも十分留意してケースに対応している。ポスター掲示、チラシ配布している。			

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 28年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【件数を記入】	2197 件		
	イ. 「28年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	配偶者が金銭管理するも多額の債務があり、ロングショートステイ利用中の本人の担当介護支援専門員より相談があったケース。子はいるが、子の名義の借金を作った事で断絶。支援中に配偶者が脳梗塞発症し長期入院となり、本人の介護支援専門員より施設利用料の支払いや配偶者自身の債務返済も含め関わらざるを得ない状況から地域包括介入依頼があり、介護支援専門員と連携を図りながら、配偶者には親族による後見人申し立てを行い、介護支援専門員の心理的、物理的な負担軽減を支援した。		
	ウ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	3 回		
	エ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	① 主任ケアマネ交流会 日程:H28年7月1日 内容:常盤平地域管内の主任CMの交流を図る。 講師:常盤平地域包括職員 ② ケアマネ交流会 日程:H28年7月11日 内容:「事例を通しケアマネジメントの考え方を学び合う」 講師:常盤平地域包括職員 ③ケアマネ交流会 日程H29年2月13日 内容:(1)管内のケアマネの交流を図り、顔の見える関係作りのきっかけを作る。(2)団地地域包括増設に伴う説明とお願い 講師:常盤平地域包括職員		
オ. その他【任意・自由記入】	1人の介護支援専門員が多くの他機関と連携を図る事は困難な為、地域包括支がそのような環境作りとネットワークの構築を行う事が包括的ケアマネジメントに繋がると思われる。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。	4	4		好事例について ・困難事例は多く、介護支援専門員との同行訪問は何度も行っている。 ・介護支援専門員の負担を考慮し依頼している。できる限りのサポートをしている。
評価の根拠	ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。	369 件	/	
	イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】	親子で生活保護受給しているが、保護費を子が管理し本人が必要な物品や受診時のタクシー利用できず要求すると暴力を受ける虐待ケース。子と本人の担当介護支援専門員との間で最低限の連絡すら困難な状況が続き、介護支援専門員の心理的負担が大きかった。虐待対応の中で一時的に親子分離をおこなった。介護支援専門員の心理的負担解消、利用者の利益最優先等を考慮し、介護支援専門員の交代も選択肢の一つとして地域包括より提案。複数回の話し合いと介護支援専門員の熟慮により交代。約半年後には虐待対応も終結した。		
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(28年度1年間)【件数を記入】	178 件		
	エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】	70代独居、要介護2。今までに複数回自己都合による介護支援専門員の交代を繰り返していた。社会や世間に対する不満、ヘルパーには介護保険で対応できないサービスを要求を繰り返していた。それらを介護支援専門員に執念深く訴える為、介護支援専門員の心理的負担が大きく、業務遂行にも影響があった為、地域包括が本人の訴えを傾聴する事で、介護支援専門員、サービス事業者への粘着的な訴えを軽減する支援を行うと同時に介護支援専門員やヘルパーに対しても本人の本質的な訴えを代弁し、双方の理解に繋がる支援を行った。		
	オ. その他【任意・自由記入】	高齢者がその人らしい生活を送る為の手段が介護支援専門員へのサポートである事を認識し、受け身ではなく主体的に利用者支援できるような対応が必要であると感じた。ケアマネ同行訪問を頻回に行いケアマネを支援している。		

6. 地域ケア会議関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。	4	4	好事例について高齢者支援連絡会で検討した10年分の事例集を発行した。関係機関にも配布していることから類似した事例への対応の参考となると考える。また、県内で常盤平の地域ケア会議の方法を発表した。	
ア. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる			
イ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】	地域個別会議の委員にテーマについての意見を聞く機会を設けている。特に地区担当の医師には必ず確認している。常盤平団地は、地区社協およびNPO孤独死研究会メンバーにも相談している。個別会議での課題を推進会議に上げている。			
ウ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる			
エ. ウが「いる」の場合に、当該地域個別ケア会議の事例と参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【職種を記入】	【事例】 ①ゴミ屋敷の改善 ②難病支援 ③認知症で被害妄想の独居高齢者や認知症高齢者危険運転 【職種】 いつも参加するメンバーに加えテーマによって参加者を検討している ①町会長、相談協力員、民生委員、生活支援課 ②NPOあんしん電話職員、生活保護担当者、県保健師、 ③NPO孤独死研修会職員、金銭管理日常生活支援事業担当職員、松戸市基幹相談センター職員、障害福祉課職員、など			
オ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議事録)を参加者間で共有している／いない	いる			
オ. その他【任意・自由記入】	年間スケジュールを提示し、参加者へ配慮している。地域ケア会議の開催方法について県の研修で発表した。事例集を作成した。多くの地域住民参加がある。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。	4	3		
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	認知症の本人を介護している配偶者のストレス軽減のための地域活動を検討した個別事例から地域の社会資源について検討した		
		他者に不信感のあるゴミ屋敷に住む高齢者面倒を見る家族が支援拒否した個別事例から地域での孤立について検討した		
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる		
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる		
	エ. その他【任意・自由記入】	市のケア会議の結果を個別会議においても、推進会議においても報告している。 報告内容 ・サポート医制度・オレンジ協力員の活動・介護支援専門員が職域を超えた支援を余儀なくされているので市レベルでの対応を検討している事・社会資源マップ・ゴミの個別回収		

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	悪性腫瘍の摘出手術後、独居でヘルパーを利用して生活してきたが、妄想・幻覚・幻聴が出現し始め、昼夜逆転が見られる。侵入者がいると救急車・警察を呼ぶようになった。主治医がおらず医療相談が難しい状態であった。地域包括は精神科医療の往診を利用。その後精神科病院への入院に繋がった。 家族から相談のあったケース。精神症状のため、家中を消毒する・手を洗い続ける行為があり入院レベルではないとの診断。家族が疲弊していたため、レスパイト入院を検討したが精神科の受け入れは困難なため入院できなかった。徐々に外来受診が出来なくなったため、往診のできる精神科(複数箇所)に連絡。往診で対応できた。		
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	以前、事業対象者でいきいきトレーニングに参加していたが、拒否があり中断していた。その時点で生活できていたが、認知症症状の進行が懸念されたため継続のみまもりが必要であると判断。医療機関へ定期受診しているためMSWと包括の連携がもともとできていた。そのため、受診時の様子(認知症が進行した様子など)を継続的に医療機関のMSWが報告してくれた。やや認知症が進行した段階で介護保険に繋ぎ、現在は通所介護サービスを受けている。 医療機関より連絡が入ったケース。受診カルテを読んだMSWより、虐待を受けているのではないかと相談あり。連絡が入った際、本人は受診していなかったため次回受診時に連絡をもらい、本人と面談することとなる。受診時に地域包括職員が面接したところ、褥瘡があり、栄養状態が悪化していたため虐待疑いと判断。継続支援が必要と考え、自宅訪問を提案するが拒否。MSWと相談しながら支援を継続している。		
	ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	医療機関より、本人が身体的虐待をうけているようだと言った相談があったケース。本人は透析治療を週3日していたが状態が悪化したため医療機関へつなぎ入院となった。自宅訪問したところ、本人は配偶者から不適切な介護を受けており、養護者である配偶者も介護が必要な状態であることが分かった。その後本人は、自宅ではなく施設へ転院。その後は配偶者の状況を入院先のMSWへ連絡しながら支援している。 医療機関より家族から虐待を受けているようだと言った相談があったケース。財産はあるが家族は節約しており、自宅の環境は劣悪であったため自宅に戻さず転院を考えていたが家族より強い拒否あり。転院先の施設見学に地域包括が何箇所も同行。家族が納得できる施設が見つかり転院できた。		
	エ. その他 【任意・自由記入】	MSWと連携が取れている病院との連携は比較的スムーズに取れている。医療と介護支援専門員をつなぐ役割を担うことも多い。		

②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。	4	3		
評価の根拠	ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(28年度1年間)【件数を記入】※相談支援件数・アウトリーチ件数・合計を記載	<p>相談支援件数 1 件 アウトリーチ件数 0 件 合計 1 件</p>		
	イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	<p>要介護5の親を介護している60歳代の本人は、2年前から認知症の症状みられた。本人には病識なく、その対応に困った子から相談があったケース。子が本人の主治医に相談し主治医から本人に認知症の検査を提案して貰うが、その事に対し本人が激怒。そのため地域包括よりサポート医のアウトリーチの対象になるか相談した。それと平行して、地域包括が本人に対して医療機関受診について話を重ねたところ受診につながった。</p>		
	ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するためにやっている具体的な方策【自由記入】	<p>サポート医や認知症サポート医には、地域ケア会議への参加勧奨を行っている。毎回の地域ケア会議に医師の参加がある。認知症コーディネータやまちっこプロジェクトなど医療関係の研修や会合に参加している。医療機関が開催する研修は、土・日曜日や夜(21時)開始の物が非常に多いが、積極的に参加している。業務の中で受診同行や担当者会議など医療関係者と密に連絡を取り合っている。</p>		
	エ. 医療関係者と合同で参加した全てのカンファレンス・研修の日程・テーマ【日程・テーマを記入】	<p>認知症サポート医とのカンファレンス5月7月9月11月1月3月第2火曜日・訪問看護との連携やさしい手運営会議9/23・6/24・3/10鎌ヶ谷精神医療研究会「地域で暮らす精神科疾患患者」7/2医療従事者を含むカンファレンスは、毎月数件ある。介護医療連携推進会議／千葉県看護協会松戸地区部会研修会</p>		
	オ. その他【任意・自由記入】	<p>サポート医申込み前に、本人家族により受診に繋がったケースがあり今年度は、サポート医のアウトリーチには繋がらなかった。</p>		

8. 認知症高齢者支援

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	4	3		困難事例の中には、毎月訪問し、長い時間かけて関係を築いた事例がある。そこからサービス利用につながり、現在も良い関係である。
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	1 件		
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容【自由記入】	認知症があるが、傷だらけの車を運転し、同じものをいくつも買ってきてしまう、ゴミ出しの日を間違える等の行為があったケース。本人と家族の認識が浅く、地域住民が心配していた。地域包括が1年かけて関わり信頼関係を構築し、認知症初期集中チームと協働して受診へつながった。その後介護保険申請・デイサービスに繋がり、民生委員・町会役員の関わりもあり落ち着いている。		
	ウ. DASCを活用した認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(28年度1年間)【件数を記入】	6件		
	エ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	地域の行事で地域包括の相談コーナーに相談に来られた方で、物忘れが心配だと言われた方。以前は要支援の認定を持っていたが、期限切れであった。チェックリストを行い事業対象者に繋がり、半日型のデイサービスに通うようになった。		
	オ. その他【任意・自由記入】	DASCの点数で該当する方は今回は居なかった。今後、さらに介護予防教室や、認知症カフェなどで実施し、把握していく。		

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。	4	4	カフェYOUKAのボランティアは、昨年立ち上げたばかりでもあるため、ボランティアによる自主運営の方法を日々話し合いながら進めているところである。	
ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	43 件			
イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動(1事例)の内容【自由記入】	カフェYOUKAのボランティア 昨年立ち上げたばかりでもあるため、ボランティアによる自主運営の方法を日々話し合いながら進めているところである。			
ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程、主な参加者層及び参加者数【日程・主な参加者層・参加者数を記入】	9/29(木)⇒千駄堀第一町会 おおむね65歳以上 30名 10/13(木)⇒五香駅前郵便局 30代～50歳代の職員31名、 12/6(火)⇒グループホーム介護職員50名、 12/8(木)⇒サ高住介護職員11名 2/25(土)⇒南部市営住宅25名 3/14(火)⇒常盤平保健福祉センター40～50歳代の25名 3/22(水)⇒常盤平団地地区社協 50～70歳代のスタッフ18名			
エ. 認知症ケアパスの普及啓発のためにしている具体的方策【自由記入】	認知症予防教室、地域で依頼のあった認知症サポーター養成講座での普及。			
オ. その他【任意・自由記入】	認知症や健康には非常に関心の高い地域であり、特に民生委員からは茶話会やふれあい会食会には当地域包括のスタッフに健康講話の依頼も多数あり。			

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	4	4		
評価の根拠	ア. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	同居家族が転居し独居、その後心疾患による不安により入退院を繰り返している男性の事例。囲碁が唯一の趣味で他者との交流の機会。移動が自宅周辺でも時折苦しくなり閉じこもりがち。元気応援サービスの移送サービスを利用してデイサービスではなく東日本震災避難者を支援するNPO法人が運営している囲碁の場に通うことで生きがいのある毎日を取り戻した。		
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	<p>圧迫骨折後、日常生活に支障がありMSWを介して相談あり、通所型サービス(みなし)と訪問型サービス(みなし)を利用し、アセスメント毎にサービス提供回数を徐々に減らし、ADL、IADLの向上が認められたため両サービス終了。ケアプランを作成して地域包括主催の介護予防教室に繋いだケース。</p> <p>6年前から独居で医師から運動するよう勧められた事例。いきいきトレーニングにて運動を3か月集中で行い終了。チェックリスト実施し卒業はできなかったが、運動に関する項目に効果があらわれた。終了後は外出回数も増え体力に自信がついた様子。</p> <p>認知症の配偶者の介護をしており、外出機会が減少し運動不足を自覚して相談。チェックリスト及び松戸市版アセスメントシートでは運動機能には該当せず、口腔ケアに関する項目が該当。当初は口腔ケアの短期集中トレーニングのプログラムに必要性を感じていなかったが、プログラム実施後は本人も必要性を感じ毎回積極的に参加された。終了後は3か月間で学んだ口腔ケアを日常生活に取り入れ、運動は地域包括主催の介護予防教室に繋ぎ毎回参加されている。</p>		
	ウ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	訪問によるモニタリングを実施。少なくとも3ヶ月に1回は訪問している。訪問できない月は、必ず電話にてモニタリングを実施している。本人の健康状態・日常生活能力・社会状況などの変化・ケアプランの実施状態の確認を実施し、課題が変化していないか把握し、本人の希望、社会や家族のニーズがプランに反映されているか確認する。		
	エ. その他【任意・自由記入】	自立支援を心がけてケアマネジメントを実施しているが、地域のサービス等の受け入れ体制との調整が困難である。また地域の受け入れ先となる団体数自体まだまだ少なく、実施回数も年に数回程度～単発の箇所もあるなど自立支援プランに反映されないものもある。		

評価項目		回答欄		主な好事例・課題	ヒアリング事項
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するためにしている具体的方法【自由記入】	市役所から送られてくる毎月の居宅支援事業所の一覧表や松戸市ケア倶楽部からの情報を基に受け入れ可能な事業所を対応可能曜日・時間など利用者や家族に合った事業所を総合的に判断して依頼している。委託先が公平に行われるようセンター職員内で連絡を徹底して確認を励行している。			
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	通常の連絡体制および包括主催のケアマネ交流会において地区内の居宅介護支援事業所所属の介護支援専門員と情報を共有し、相互に協力。連絡を緊密にし、かつ打ち合わせを正確にすることで信頼関係を構築している。			
	オ. その他【任意・自由記入】	予防プランや事業対象者プランを引き受ける居宅介護支援事業所が少ない、逆に介護支援専門員の退職や居宅介護支援事業所閉鎖のため予防プランを包括に返したい旨の要望が多い。			

10. 松戸市指定事業

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。	4	4		
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 30回 参加総数 1325名。 上半期は、毎月第2火曜日・自由参加・先着受付としていたが安全面を考慮して6月から限定70名として入場制限を行った。10月からは第3金曜日を追加し、曜日別の登録制とした。 ○最多参加総数 80名 5月の教室であった。年度末の登録はどちらも70名となっている。第一興商の歌謡体操を3回、絵手紙教室を4回実施した。通常開催の参加者平均は61名、男女比としては女性が9割である。		
	イ. センターが開催する認知症予防教室の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 5回 参加総数 59名 ○最多参加総数 18名 日時:10月26日(1日目) 内容:認知症予防に対する知識を高める事を目的に①手話ソング(アイズブレイク)②認知症についての講義③講師の先生の写真鑑賞を実施。2日目には実際に写真を撮りに行き、3日目には写真の評価をしてもらう事で認知症予防や写真、なかま作りのきっかけとなるよう働きかけをした。その後も継続して写真の集まりをしたいと言う参加者が多く、現在、自主活動化に向けて活動を継続している。		
	ウ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】	H27年度認知症予防教室の参加者のうち5名が介護予防教室の運営補助のボランティアとして活動中。また、オレンジ協力員を含めた6名がカフェの企画運営の主要メンバーとして現在もカフェの自主運営スタッフとして活躍している。 その他、認知症サポーター養成講座の寸劇で相談協力員の方に協力を得ている。		
	エ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	介護保険認定申請代行: 231 件 住宅改修の助言・理由書作成: 13 件 その他: () 件 その他: () 件		
	オ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】	各町会の茶話会での出張講座・地域の行事でのアウトリーチ(相ブース設置) さわやか広場:2回 / 介護カフェ「いきいき人生」:1回 / 千葉県看護協会松戸地区部会研修会:1回 / 常盤平4丁目「あやめ会」:1回 / 茶話会:1回 / ふれあい会食会:1回 / 牧の原2丁目町会及びたんぼぼの会:1回		